
あとがき

Postscript

下地秀樹

SHIMOJI, Hideki

本誌は、総合人間学会のオンラインジャーナル『総合人間学研究』第13号である。早いもので、『総合人間学』（書籍）とは別にオンラインジャーナルの刊行（公開）をはじめて7年度目、誌名を『総合人間学研究』にあらためて3年度目を迎えた。ここ2、3年、投稿減少傾向が指摘され危惧されていたが、研究大会の発表者を中心に危惧を振り払う投稿があり、結果として一般投稿論文3本、しかもベテラン、中堅、若手と世代が多様な力作を掲載することができた。蔭木会員の論文は若手研究者奨励賞受賞作ともなった。学会誌として、まずは投稿論文を重要な舞台として確認し続けていく必要がある。その際、本学会の趣旨である「人間の総合的研究」に相応しい論文とはどのようなものなのか、各専門分野との関わりでそれはどんな意義を有することになるのか、審査体制とも関わるこうした課題に対し、編集委員会、運営委員会は会員諸氏ともども、今後も一層、試行錯誤していくことが求められている。

投稿の他には、学会内の諸企画、研究談話会での報告を元にした論考として、古沢会員による昨号に続く論考と菊池会員の論文、そして清会員の自著紹介を兼ねたエッセイを掲載している。これまで続けて来た「総合人間学の課題と方法」に関する論稿は、昨号では準備が整わず中断となり、今号でもまた準備が整わなかったが、古沢会員の連作論稿はこれを継続させるものだろう。また、オンラインジャーナルではずっと続いてきた「図書紹介」（会員の最新著書紹介）は、残念ながら今号には一件も情報が寄せられなかった。清会員のエッセイは尾関会長の問題提起とも絡み、「図書紹介」欄を設けられなかった間隙をいくらか埋めるものとなっている。今後また、このような会員による問題提起に応答する試みが続けば、本学会の趣旨に連なる興味深い議論が期待できると思われる。

昨号より始めた、学会誌（書籍）の合評会での講評者による論考を、本号では講評者

二名ともから得て掲載することができた。穴見会員のコメントには、本学会と会員諸氏の発表そして研究交流の場をめぐる提言が盛り込まれている。本学会の大きな特色と言っても過言ではない、研究大会での「若手シンポジウム」の諸報告、および総括に関わる論考の掲載も続けることができている。

このように本ジャーナルは、今後とも研究大会から研究大会を一サイクルとして、学会内の研究資源を少しでも活用し、どんなにささやかでも「人間を総合的に捉える」議論を活性化する舞台であり続けることを使命としている。

最後に、まことに拙い編集責任者であるが、本学会幹事(編集担当)の鈴木朋子会員にはよくご助力をいただいた。英文タイトルについては、畏友である篠原康正氏(元文部科学省専門官)にご助言いただいた。また、表紙の写真は穴見眞一会員に提供していただき、編集工程は太田明会員が担当された。ここに記して、心からの感謝の意を表したい。

[しもじひでき／立教大学／教育学]